

中央区文化・国際交流振興協会だより



「日本橋」(1986年) 小川幸治 中央区立郷土天文館所蔵

● 特集 ●

日本橋幕末維新秘話 伊東 成郎

- 第27回中央区国際交流のつどい
- 平成30年度の事業報告と決算
- 中央区まるごとミュージアム2019



日本橋 幕末維新秘話

いとう せいろう
伊東 成郎



第21回古典芸能鑑賞会

令和元年6月に開催した第21回古典芸能鑑賞会では、その冒頭に、江戸幕末維新史・新選組研究家としてご活躍の伊東 成郎氏（新富町在住）を講師にお招きし、「日本橋幕末維新秘話」と題して講演していただきましたところ、大変好評でありました。そこで、このたび講演に関連した内容で寄稿していただきました。

伊東 成郎 プロフィール



中央区明石町に生まれる。
明治大学文学部史学地理学科卒業
祖父が明治41年に新富町に創業した写真館三代目当主
元中央区江戸開府400年記念事業検討委員会委員

主な著書

『新選組と刀』『新選組最新夜話』（河出書房新社）
『新選組二千二百四十五日』『幕末維新秘史』（新潮社・新潮文庫）
『忠臣蔵101の謎』『土方歳三の日記』（新人物往來社）
『江戸・幕末を切絵図で歩く』（PHP）
『新選組史料大全』（共編）（KADOKAWA） 他

現在、首都高速が上を走る石造りの日本橋は、明治44年（1911）年に完成・開通した。

江戸最後の日本橋は万延元年（1860）に架橋されたものだった。明治6年（1873）に架けかえられ、8メートルだった橋幅が14メートルに拡張されたが木造橋のままである。

維新後、食と経済の町として一帯がめざましく発展する中で、木造の日本橋に複雑な思いを持つ者は少なくなかったようだ。

元幕臣でジャーナリストの戸川残花は、「日本橋というから、どんな大きな橋であるかと想像して来てみると、誠に変なケチ臭い木の橋である。（中略）しかしその木橋も、江戸時代では非常に有り難がったものである。（『日本橋』）」と認め、また、幕末期に13歳で初めて渡った時から日本橋に愛着を持っていた渋沢栄一は、次のように綴った。

繁栄なる土地には、立派な橋梁を要するは自然のことである。そして日本橋を中心とせるその付近は、東京の内でも最も繁昌な土地で、また種々の商売の中心である。（中略）各種の店はもちろんのこと、有名な銀行や会社は軒を並べておる。（中略）しかるに今までの日本橋は、東京中の橋の中でも、最も立派であるべき筈なのに、事実はこれに反して、最も小さく、またみずぼらしいのには、今更に驚くわけである。（『錦絵で見たる日本橋とその変遷』）

ちなみに明治21年より、渋沢は日本橋に近い兜町2丁目に豪邸を構えていた。

明治25年12月11日のこと。馬車で家を出た渋沢は、その直後に兜橋で二人の賊に襲われた。辛くもかわした渋沢は、三越呉服店に逃げ込み一命を取り留める。さらに渋沢は、懲役10年の刑を終えた犯人に、二度も大金を送り、新しい人生を応援した。

また渋沢は「みずぼらしい」日本橋が立派な石造りの橋として開通した、明治44年4月3日の日記に、こんなことを書いている。

午前7時起床。（中略）この日は日本橋開通式挙行につき、かつて（中略）案内を受けたれば、早く午喰（昼食）を畢りて出張せしも、雨頻りに降り出て、道路悪くかつ多人数雑沓するにより、西河岸橋より自動車を返して、式場に臨まずして帰宅す。

天気と混雑具合に辟易して、式典出席を直前でやめた渋沢は、今

の日銀通りにかかる西河岸橋から引き返した。残された記録をみても日本橋の開通式は大変な人出で、人波に押され、意識不明になった者たちもあった。

また幕末に上府して以来、日本橋に強く愛着を持ったのが佐賀出身の大隈重信だった。

大隈は後年、初架橋された際に日本橋の欄干を飾った万治元年（1658）銘の擬宝珠を入手して自宅の庭に置いたが、なぜか忍び込んできた賊に盗みと



渋沢栄一邸跡（日本橋兜町）



旧兜橋 渋沢栄一襲撃現場跡



西河岸橋



大隈重信（筆者蔵）

られてしまった。

大隈は後年のエッセイ（「田舎者の見たる日本橋」）で「これは実に惜しい事をした、泥棒も今少し歴史を考えてくれるとよかった」と妙な述懐をしている。

江戸幕末の母親たちは、乳の出が悪いときには、擬宝珠に願掛けをして水をかけた。形をお乳に見立てたのである。また、擬宝珠に巻いた紐に子供の頭痛や百日咳などの病氣回復を願った紙切れを巻き付けた。擬宝珠を頭にも見立てたのだった。

幕末の日本橋の擬宝珠にも、願い事の紙がたくさん結んであったと記録にある。

また、日本橋とは切り放せないのが最後の将軍、徳川慶喜である。

慶喜は慶応4年（1868）1月の鳥羽伏見戦争のさなかに大坂から江戸に戻ったが、その日の夕飯に、日本橋の魚市が上納した鰯を食べた。当時鰯は別名をシビといい、死日と繋がることから武士に忌み嫌われた魚だった。

だが慶喜は、将軍として江戸で最初に食べた夕飯を、刺身、味噌漬け、葱鰯鍋と鰯のフルコースにし、側近らから「闊達な上様だと驚かれた」と資料『藤岡屋日記』にある。

さらに、今も日本橋に装着されている橋名プレートの題字を書いたのも慶喜だった。「維新の際、江戸の兵禍を免れしめ給える（徳川慶喜）公の御筆こそ然るべけれ」として、白羽の矢が立ったのである。

だが、題字を書くに当たり、ちょっとしたトラブルがあった。慶喜の書いた「本」の字が「大」と「十」の二文字にみえたとクレームをつけた者がいたのである。



日本橋銘板

律儀な慶喜は「過ちを千載に残すは本意にあらず」と書き直した（『徳川慶喜公伝』）。

江戸幕末の日本橋には異様なものがあつた。位置は橋の南東の隅になる。現在の交番付近にあった広場に、年に一回か二回だけ、特殊なスペースが設置されたのである。

その名を日本橋晒場という。心中未遂の男女、女性に溺れた僧、主人に手をかけた使用人が、ここで3日ほど晒されたのである。



日本橋晒場跡

心中者や僧侶は、晒し後にきびしい処分を受けたが、特に主人殺しの者は、晒しの後に刑場に送られ、極刑が執行された。

日本橋とゆかりの深い市井の一人に、森本九右衛門という人物がいる。天保12年（1841）に、三越の前身の三井呉服店に10歳で奉公に入り、幕末と明治の端境期に53年間を勤め上げ、のちに三越呉服店の支配人となった、三井三越一筋の人物である。

退職後も20年にわたって、毎月一日と十五日には欠かさず三越呉服店を訪れ、奉公人たちを激励したという。

幕末に九右衛門は浪人接待係という臨時の役目につき、



近藤勇



土方歳三(佐藤彦五郎
新選組資料館蔵)

連日金の無心に来る浪人らに果敢に対応したという。日本橋界限の本店の呉服店の中で、浪人らによる被害は三越が際だって少なかったといい、九右衛門は「私の一生で一番怖くって辛かったのは、この時です」と回想している。（『森本九右衛門翁が伝』）

今一人、日本橋と関わりのある意外な幕末の有名人が、新選組の副長土方歳三である。

土方をはじめ、近藤勇や沖田総司といった者たちは、天然理心流という剣術に秀でていた。幕末から多摩地方でさかんに遣われた剣術で、開祖は近藤内蔵助という人物である。

前歴などは不明だが、江東区北砂の内蔵助の菩提寺にある妻子の過去帳には、一家が両国薬研堀に住んでいたと記録されている。現在の東日本橋にあった幕府の米倉につながる入堀が、矢ノ倉跡の碑（薬研堀由縁）薬を細かく砕く器具の薬研



に似ていたため、この名で呼ばれたと言われる。

新選組ゆかりの天然理心流の発祥地は中央区にあった。道場跡地は特定できないが、新選組の剣術は、本区で生まれたのである。

土方歳三は、現日野市の豪農の5男に生まれ、少年時代に江戸へ奉公に出ている。

土方少年の奉公は2回だったという。最初は上野の松坂屋呉服店に奉公したが、番頭と喧嘩をして実家へ帰ったという。続いて、本区大伝馬町に奉公したが、同僚の女子と懇ろになり、退店したと伝わっている。

ただ、最近、日野市内に残る宗門人別帳から、土方が一度も実家に帰らず、10年間の奉公を勤め上げたことが判明している。

なお、土方は意外にも俳句が趣味だった。自選の俳句集には「朝雪の盛りを知らず伝馬町」という句も残されている。

伝馬町は、朝に積もった雪もいつのまにか掻き消されるほど、往來が賑わっている。

そんな俳句だった。大伝馬町は幕末以前から活気のあった、本区の間屋街である。

俳句も残る以上、確かに土方は大伝馬町とゆかりがあったと思われる。イケメンの土方歳三は、10年の間、大伝馬町に奉公し、日本橋もおりおりに渡って、本区での奉公人生活を送っていたのだろう。



大伝馬町

「三味線は初めて弾きました。
普段からギターを弾いているので
難しくはなかったです。
面白いです」

ベンツェさん [ハンガリー出身]
リナさん [ドイツ出身]



●長唄三味線を弾いてみよう！
Let's try Shamisen!



たこ
●凧づくりと凧の展示
Kite Making and Displays



●スペインの料理
Spanish Foods



●呈茶・茶道体験
Tea Ceremony Experience

た
●抹茶の点て方体験
Matcha Making Experience



●サリー着付け
How to put on a Sari

第27回中央区国際交流のつどい

27th Chuo International Exchange

11月16日(土)、築地社会教
第27回「中央区国際交流のつどい」
19 国出身の外国人 102 人を
伝統文化や遊びなどを通じて交



●生け花体験
Flower Arrangement Experience



●和太鼓ワークショップ
Taiko (Japanese Drum) Workshop



●防災コーナー
Disaster Preparedness



●風呂敷
Furoshiki Wrapping



●江戸太神楽
Edo-Daikagura

中央区文化・国際交流振興協会が、ボランティアの方々と協働して、毎年 11 月に開催している「中央区国際交流のつどい」。今年も大勢の世界各国の老若男女の方々が国際色豊かなひと時を楽しみました。

当日、161 人ものボランティアの皆さまが外国人の方々に日本の伝統文化などを体験してもらおうと用意していただいたコーナーは、全て無料で楽しむことができる 14 か所。今年初めての「凧作りコーナー」では、絵を描いた和紙と竹ひご・糸で「エイ凧」を作りました。茶道のコーナーは今年 2 か所に拡大し、「呈茶・茶道体験」と「抹茶のたて方体験」をゆったりと楽しむことができました。和室では、正座に不慣れな外国の方のために座椅子が用意され、季節の和菓子をいた

だきながら贅沢な一服を満喫。茶筌を手にお抹茶をたてる貴重な経験もできました。

「長唄三味線を弾いてみよう！」コーナーでは、ひとり一棒づつ三味線が渡され、『さくらさくら』の演奏に挑戦。演奏に夢中になるあまり、終了時間を過ぎてもバチを握り練習に没頭する姿も見られました。外国人限定の「着付け」コーナーは、着物の着付けに加えて髪飾りもつけてくれるフルコース。艶やかな和服姿にカメラを向け合う女性たちで賑わいました。ガーベラ、キキョウラン、コーリヤナギ、サンゴミズキが用意された「生け花体験」コーナーでは、お手本の作品を見ながら花生けを堪能。「墨絵」コーナーでは、柿や柚子などの実物モチー



「アメイジングなことが
いっぱいです！」

ビクトリアンさん
フランソワさん
[フランス出身]

●日本の遊び・海外の遊び
Japanese Games・Foreign Games



●日本の料理
Japanese Foods



●スリランカミルクティー
Sri Lankan Milk Tea



●墨絵
Sumi Ink Drawing

国際交流のつどい

City
Change Party

教育会館で
「つどい」が開催されました。
を含む 426 人が参加し
交流を楽しみました。

11/16(SAT)
12:00-16:00



●着付け
Kimono Etiquette



●折り紙
Origami

「来日して8ヵ月。
日本はとってもきれいですね。
いろんなカルチャーがあって
楽しいです」

スメットさん、シルバさん、
シャオリくん [インド出身]



●サルサ
Salsa Dance



●盆踊り
Japanese Bon Dance



フを前に、墨で和紙に絵を描いていきました。「折り紙」コーナーでは、オリンピック・パラリンピックに向けた中央区おもてなしプロジェクトのひとつ「折り鶴ウェーブ」も紹介されました。「風呂敷」コーナーでは、日本の知恵、エコバッグに早替わりする風呂敷の包み方が人気でした。

「サリーの着付け」では、異国情緒豊かな装いを楽しむ親子が多く、館内のあちこちに可愛い姿が。音楽室の「和太鼓ワークショップ」では、迫力満点のデモンストレーション演奏や、みんなで笛の音に合わせて自由に太鼓を叩く合奏で大盛り上がりでした。「踊り」のプログラムでは、獅子舞や傘の上で枡を回す伝統曲芸の「江戸太神楽」が初めて披露され、陽気な芸の数々に釘付けになりました。「サルサ」

と「盆踊り」では、参加者が大きな輪を作って曲に合わせてダンシング。言葉を越えた交流で笑顔があふれました。

料理コーナーでは、日本の「けんちん汁」、スリランカの「ミルクティー」に加え、今年はスペイン料理「トルティージャ」が登場。ポテトとグリーンベッパー入りのスペイン風オムレツに、にんにくを効かせた白いアリオリスソースがかり食欲をそそります。「防災コーナー」では、中央区が備蓄している非常食の試食のほか、レトルトカレーと水やお湯を注ぐだけで食べられる白飯のお土産も配られました。

手作りのイベントならではの素敵な国際交流の輪が広がった秋の好日。皆さん、また来年も一緒に楽しみましょう。

平成 30 年度の事業報告と決算

平成 30 年度事業報告

令和元年 7 月 12 日（金）に開催されました理事会において、平成 30 年度の事業報告及び収支決算報告が審議され、承認されましたのでその概要を報告します。

I 文化振興事業

(1) 機関誌の発行

「中央区文化・国際交流振興協会だより」を発行しました。

発行部数等 5,500 部 A4 判 8 ページ
発行回数 年 2 回（平成 30 年 7 月—第 69 号、同年 12 月—第 70 号）

(2) ホームページの運営

スマートフォンにも対応できる協会ホームページを適宜更新して、協会の概要をはじめとする事業内容やイベント案内等の最新情報を提供し、協会に対する理解と参加の促進を図りました。

URL : <https://www.chuo-ci.jp/>

また、twitter や facebook を利用して情報発信も行いました。

(3) コンサートの開催

親しみやすい音楽鑑賞の機会を提供しました。

日 時	平成 30 年 9 月 7 日（金） 午後 6 時 45 分開演
会 場	日本橋公会堂ホール「日本橋劇場」
内 容	沖仁 フラメンコギター コンサート
出演者	沖仁、智詠
入場者数	424 名
参加費	1,500 円



(4) 文化講座の開催

伝統芸能の舞台を支える裏方の知られざる役割や伝承される技の数々、小道具や付け打ちなど、実際に見て触れて、舞台裏から歌舞伎の魅力を発見する体験型の連続講座「舞台裏から学ぶ歌舞伎」を開催しました。

第一回

日 時	平成 30 年 9 月 11 日（火） 午後 6 時 45 分開演
内 容	「歌舞伎背景画の世界～歌舞伎の絵にチャレンジ～」
及び講師	歌舞伎大道具（背景画）製作技術保存会事務局長 岩瀬 道博

第二回

日 時	平成 30 年 9 月 18 日（火） 午後 6 時 45 分開演
内 容	「歌舞伎小道具のいまと未来」
及び講師	藤浪小道具株式会社 近藤 真理子

第三回

日 時	平成 30 年 9 月 25 日（火） 午後 6 時 45 分開演
内 容	「歌舞伎の醍醐味・付け打ちに挑戦！」
及び講師	パシフィックアートセンター附け打ちグループ附け打ち専門職 山崎 徹

会 場 第 1 回及び第 2 回 日本橋公会堂 第 3・4 洋室
第 3 回 日本橋公会堂第 3・4 洋室及びホール「日本橋劇場」

参加者数 延 222 名

参加費 無料



(5) 特別文化講演会の開催

各展覧会に関連した講演会（入場無料）を、NHK との共催により開催し、区民等の文化意識の向上を図りました。

① 特別展「人体—神秘への挑戦—」関連文化講演会

日 時	平成 30 年 4 月 10 日（火） 午後 6 時 50 分開演
会 場	日本橋公会堂ホール「日本橋劇場」
講 師	国立科学博物館 名誉研究員 山田 格
参加者数	340 名

② 「ミケランジェロと理想の身体」関連文化講演会

日 時	平成 30 年 7 月 5 日（木） 午後 6 時 50 分開演
会 場	日本橋公会堂ホール「日本橋劇場」
講 師	国立西洋美術館 研究員 飯塚 隆
参加者数	406 名

③ 「没後 50 年 藤田嗣治展」関連文化講演会

日 時	平成 30 年 8 月 30 日（木） 午後 6 時 50 分開演
会 場	日本橋公会堂ホール「日本橋劇場」
講 師	東京都美術館 学芸員 下倉 久美
参加者数	432 名

④ 「奇想の系譜展 江戸絵画ミラクルワールド」関連文化講演会

日 時	平成 31 年 3 月 7 日（木） 午後 6 時 50 分開演
会 場	日本橋公会堂ホール「日本橋劇場」
講 師	東京都美術館事業係長 学芸員 中原 淳行
参加者数	379 名

(6) 古典芸能鑑賞会の開催

中央区に深い関わりを持つ古典芸能を鑑賞する機会を提供することで、由緒ある伝統文化に対する愛着心を育み、その継承・普及を図りました。企画・制作は、「中央区古典芸能の会」に委託しました。



日 時	平成 30 年 6 月 23 日（土） 午後 4 時開演
会 場	日本橋公会堂ホール「日本橋劇場」
内 容	木遣り 講話 「中央区西郷隆盛こぼれ話～西郷どんと龍馬の妻・お龍～」 演奏 清元長唄「舌出し三番叟」 舞踊 荻江「松竹梅」 舞踊 「新ばし夏を舞う」 演奏 常磐津「蜘蛛の糸（上）」 落語 「高砂や」 舞踊 長唄「勝三郎 連獅子」
入場者数	328 名
参加費	2,000 円（中学生以下 1,000 円）

(7) 文化推進事業助成

区内文化活動をさらに促進していくために、区民等による文化活動等に対し、その経費の一部を助成するとともに、後援を行いました。

(助成)

① 文化創造・発信事業助成

助成金額：当該事業の対象経費の 9 / 10 の範囲内（上限 200 万円）

助成件数：ア 平成 30 年度助成件数（平成 29 年度助成決定）4 件
イ 令和元年度助成予定件数（平成 30 年度助成決定）5 件

② 文化団体活動助成

助成金額：当該団体活動の対象経費の 1 / 2 の範囲内（上限 40 万円）

助成件数：ア 平成 30 年度助成実施件数（平成 29 年度助成決定）2 件
イ 令和元年度助成予定件数（平成 30 年度助成決定）3 件

③ 文化推進事業助成

助成金額：当該事業の対象経費の 1 / 2 の範囲内（上限 10 万円）

助成件数：3 件

(後援)

後援件数：13 件

(8) 中央区まるごとミュージアムの開催

文化・芸術の秋に、無料のバスや船で区内を回遊しながら本区のさまざまな文化的魅力を区民等が体験できるよう、第 11 回「中央区まるごとミュージアム 2018」を中央区との共催で実施しました。

日 時	平成 30 年 11 月 4 日（日） 午前 9 時～午後 5 時
場 所	中央区全域

実施結果

- ・バス乗車人数（区内巡回、都営バス借上げ。江戸バス無料） 合計 5,851 名
- ・乗船人数（日本橋周遊、浜町～晴海、明石町水辺ライン周遊、日本橋～晴海の 4 コース） 合計 4,359 名
- ・イベント事業数 44 事業及び 4 協賛事業等
- ・イベント参加者数 延 68,000 名

(9) 文化振興プロデュースチーム

「中央区文化振興プラン」の提言（平成 20 年 3 月中央区文化振興懇談会提言）に基づき、中央区と協会が協力して区民（企業、NPO 等を含む。）の自主的な文化活動の推進・拡大を図るため、平成 20 年度に文化への関心が高い専門家等からなるプロデュースチーム（構成員 6 名）を設置しました。

平成 30 年度は、まるごとミュージアム 2018 の事業者連絡会に出席し意見を述べるとともに、区内全体の文化事業の推進について協議を行いました。

II 国際交流振興事業

(1) 国際交流のつどい

外国人と日本人との交流を推進するため、協会登録ボランティアが主体となり、日本と外国の伝統文化の紹介や体験、踊り、料理の紹介等を通して相互の親交を深めました。



日 時	平成 30 年 11 月 17 日（土） 正午～午後 4 時
会 場	築地社会教育会館
内 容	○ 伝統文化体験コーナー（着付け、茶道、生け花、墨絵、風呂敷の使い方、和太鼓ワークショップ、折り紙） ○ 懇談コーナー（料理）（スリランカカレー、スリランカミルクティー、日本の料理「けんちん汁」） ○ 国際交流サロン（三味線の演奏と体験、国際交流サロンの紹介） ○ 防災コーナー（防災用品の展示、非常食の試食、外国人向け生活安全広報等） ○ サリーの着付け ○ 日本の遊び・海外の遊び（将棋などの日本の伝統的な遊びとチェスなどの海外の遊びを紹介） ○ 踊りのコーナー（盆踊り、フォークダンス、サルサ） ○ スリランカの紹介（独立 70 周年記念）
参加者数	423 名（外国人 86 名、日本人 161 名、ボランティア 169 名、事務局 7 名）

(2) 国際交流サロンの開催

区内在住・在勤の外国人と日本人が、日本の文化等を体験できるイベントを通じて交流を楽しめる場を提供するため、ボランティアの協力を得て「国際交流サロン」を月 1 回（11 月を除く。）開催しました。



会場 協会講習室他
内容 スプリング・ティー・パーティ、和菓子づくり、折り紙、アイスコーヒーづくり、盆踊り、マジックショーで交流、焼きそばづくり、凧づくり、チョコレートで交流、防災訓練、茶道体験
実施回数 11回
参加者数 外国人 延 125名、日本人 延 145名、ボランティア 延 80名
参加費 無料

(3) 日本語教室

日本語でのコミュニケーションが困難な区内在住・在勤の外国人を対象に、協会の日本語ボランティアによる語学の指導及び学習者と指導者の相互理解を深める場として、通年で教室を運営しました。また、教室参加希望者の増加や多様化する要望に対応するため、ボランティア主催による教室の運営について、助成金の交付や後援名義の使用、学習者紹介等の支援を行いました。



(4) 日本語指導者養成講座の開催

日本語教室の受講を希望する外国人の増加と多様化する要望に対応するため、協会主催の日本語教室やボランティアが自主的に運営する日本語教室で、ボランティア活動を希望する方を対象に日本語指導者養成講座を開催しました。

期間 平成30年6月～9月 全44時間
受講者数 27名
講師 西川 寛之(明海大学外国語学部准教授)
会場 協会講習室、新富区民館
参加費 無料



(5) 日本語ステップアップ講座

各教室で活動する日本語指導者の学習需要に対応するとともに、指導力・技法のレベルアップを図るため、ステップアップ講座を開催しました。

期間 平成30年5月～平成31年2月 全7回(14時間)
受講者数 延93名
講師 公益社団法人 国際日本語普及協会へ講師派遣を委託
会場 協会講習室
参加費 無料

(6) ボランティア活動支援

日本語教室の日本語指導者をはじめとする各種の協会登録ボランティアの活動を支援するとともに、中央区から要請を受け、区事業実施時に協会登録の通訳ボランティアを派遣しました。また、東京都が実施する「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座を共催で行いました。

① ボランティアの種類及び登録者数(平成31年3月末日現在)

登録者数: 409名(実人員)
 ・通訳・翻訳ボランティア: 111名
 ・イベントスタッフボランティア: 230名
 ・日本語ボランティア: 248名
 ・国際交流サロンボランティア: 10名
 ・ホームステイ・ホームビジットボランティア: 16名
 ・防災語学ボランティア: 66名

② ボランティアの派遣・活動(平成31年3月末日現在)

ア 通訳・翻訳ボランティア 延30名(保健センターにおける1歳6か月検診など)
 イ イベントスタッフボランティア 延19名(東京国際合唱コンクール in HARUMI「交流コンサート」における文化体験(折り紙)等の講師)

なお、協会登録ボランティアの登録システムの構築にあわせて、制度の見直しを行い、利用実績のない「ホームステイ・ホームビジットボランティア」を廃止するとともに、「防災語学ボランティア」を、単独で登録できたものから、他のボランティアに登録し日常的に活動できる人があわせて登録できるものとなりました。さらに、各ボランティアの年齢要件を明確にしたほか、ボランティアを区の事業等に派遣する際の手続きを整理しました(改正ボランティア要綱は平成31年4月1日施行)。

③ 国際理解講座・交流会

日時 平成31年2月22日(金) 午後6時30分～
会場 女性センター「ブーケ21」
演題 「パングラデシュ人にきてみよう!」
講師 株式会社ジャフコ(カレー居酒屋アイマン)代表取締役 ブイアン エムディジアウル ラフマン氏

参加者数 29名

講座終了後交流会を開催

④ 「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座(東京都との共催)

ア セットコース(おもてなし講座+語学(英語)講座)

期間及び受講者数 1回目 平成30年7～8月 3日間 31名
 2回目 平成31年3月5日間 29名(各回 11時間30分)

対象 入門～初級の語学力(英語)を有する者

会場 新富区民館

イ おもてなしコース(おもてなし講座)

期日及び受講者数 1回目 平成30年7月28日(土)55名
 2回目 平成31年3月12日(火)55名

(各回3時間30分)

対象 英語による簡単な日常会話ができる者

会場 日本橋公会堂集会所

(7) 姉妹都市親善写真展

姉妹都市サザランド市と本区との一層の親善を深めるため、お互いの生活や風景、行事等を紹介する写真を交換し、写真展を平成31年2月に中央区役所1階、日本橋区民センター1階及び月島区民センター1階で順次開催しました。

(8) 外国客船歓迎式

東京港晴海埠頭に着岸する外国客船入港時の歓迎行事に参加し、記念品を贈呈しました。

主催 東京都港湾局

一般社団法人東京港湾振興協会

入港数 4隻(初入港3隻、再入港1隻)



(9) 国際交流推進事業助成

協会の目的とする事業を推進するため、区民が主体となつて行う国際交流事業に対して、事業の実施に要する経費の一部を助成するとともに、後援を行いました。

助成金額: 当該事業の対象経費の1/2の範囲内(上限10万円)

助成及び後援件数: 1件

平成30年度決算

<収入>

科目	決算額(円)	説明
事業収入	1,391,500	古典芸能鑑賞会、コンサート参加費等
区補助金	99,020,000	中央区からの補助金
寄付金	0	
雑入	279	預金利息
収入合計	100,411,779	

<支出>

科目	決算額(円)	説明
事業費	60,410,552	
文化振興費	53,220,582	機関誌の発行、コンサート、文化講座、特別文化講演会、古典芸能鑑賞会、文化推進事業助成、中央区まるごとミュージアム、文化振興プロジェクトチーム
国際交流振興費	7,189,970	国際交流のつどい、国際交流サロン、日本語教室、日本語指導者養成講座、日本語ステップアップ講座、ボランティア活動支援、姉妹都市親善写真展、外国客船等の歓迎式、国際交流推進事業助成
管理費	36,411,149	
人件費	33,364,125	職員の給与
管理運営費	3,047,024	理事会、事務費
予備費	0	
合計	96,821,701	
区返還金	3,590,078	中央区補助金の精算返納
支出合計	100,411,779	

協会主催の日本語教室

① 水曜日教室

日時 毎月第1・第2・第3水曜日 午後6時30分～8時
会場 女性センター「ブーケ21」
実施回数 32回
参加者数 外国人 延461名、ボランティア 延449名

② 木曜日教室

日時 毎月第1・第2・第3木曜日 午前10時～11時45分
会場 協会講習室
実施回数 30回
参加者数 外国人 延459名、ボランティア 延453名

③ 土曜日教室

日時 毎月第2・第3・第4土曜日 午前10時～正午
会場 協会講習室
実施回数 33回
参加者数 外国人 延619名、ボランティア 延611名

協会が支援する日本語教室

① ワールドフレンズ日曜にほんごクラブ

日時 毎週日曜日 午前10時～11時30分
会場 日本橋社会教育会館
実施回数 49回
参加者数 外国人 延735名、ボランティア 延325名

② 日本語おたすけたい

日時 月曜日(月3回) 午後7時～8時30分
会場 日本橋社会教育会館

実施回数 32回

参加者数 外国人 延290名、ボランティア 延244名

③ 月島日本語倶楽部

日時 毎週火曜日 午前10時～正午
会場 月島社会教育会館
実施回数 42回
参加者数 外国人 延189名、ボランティア 延243名

④ 日本語コミュニケーション・パートナー

日時 毎月第1・第2・第3火曜日 午後7時～8時30分
会場 新富区民館
実施回数 35回
参加者数 外国人 延213名、ボランティア 延228名

⑤ 銀座日本語教室

日時 毎月第1・第2・第3水曜日 午前10時～11時30分
会場 築地社会教育会館
実施回数 33回
参加者数 外国人 延195名、ボランティア 延237名

⑥ にこにこ日本語

日時 毎月第1・第2・第3木曜日 午後7時～8時30分
会場 佃区民館
実施回数 33回
参加者数 外国人 延681名、ボランティア 延483名

⑦ にほんご生活

日時 毎週土曜日 午後2時～3時45分
会場 築地教会別棟
実施回数 44回
参加者数 外国人 延447名、ボランティア 延237名

中央区まるごとミュージアム2019

11月4日(月・休)、第12回目となる「中央区まるごとミュージアム2019」を開催しました。区内全域を舞台に繰り広げられた秋の人気イベントに過去最多の延べ73,000人が参加し、中央区の歴史と文化を満喫していただきました。

11/4(MON)
9:00 ~
17:00

中央区全域を一つの大きな“ミュージアム”に見立て、街の魅力や歴史を再発見して楽しむ、秋の恒例イベント「中央区まるごとミュージアム」を今年も多く区内事業者等のご協力を得て開催することができました。当日は、秋晴れの下、イベントは大盛況で、中央区の内外から過去最多となる延べ73,000人の方にご参加いただきました。中央区のコミュニティバス「江戸バス」のほか、バスガイドボランティアの街語りを楽しめる「まるごとミュージアム専用バス」、4つの船着場を発着する「船」を無料で運行し、ガイドマップを手にお目当てのイベントを目指す人、寄り道を楽しむ人など、街は多くの人で賑わいました。

今年は、9つの新規事業を含めて昨年より4つ多い48の文化イベントが、区内全域で展開され、思い思いにお楽しみいただきました。

「中央区の文化を実感！まちかど展示館〈写真①〉」では、今もいきづく老舗ならではの匠の技を集めた展示のほか、江戸文字を書くワークショップが開かれ、老若男女が“ぼたん文字”に挑戦していました。

銀座や日本橋の目抜き通りを賑わせたのは、クラシックカーイベント「THE銀座RUN Ethical∞Meeting〈写真②〉」。20世紀以前に造られた個性豊かな車の列に、カメラを向ける人が絶えませんでした。

毎年人気の事前募集イベント「まち歩きツアー『まるごとミュージアムコース』」では、今年6つのコースを実施しました。15名の定員に115名もの応募があった「中央区水辺めぐりと講談体験」コース〈写真③〉では、貸切の船やバスを乗り継ぎながら約2時間のまち歩きを満喫いただきました。

横幅10mの大型LEDモニターによる4K映像で、生命とカラダの神秘を映し出したのは「TAKEDA LIFE

THEATER〈写真④〉」。日本語と英語のどちらでも楽しめる最新のバイリンガルシアターは圧巻でした。

一方、創業203年を数える老舗呉服問屋田源では、「『オシャレきもの展』と『きもの試着体験コーナー〈写真⑤〉』」を開催。普段は問屋さんにしか公開されない、全国から集められた和服の逸品の数々に触れられる貴重な機会となりました。

歴史好きはもちろん、映画好きをも魅了したのは「偲ぶ、日本橋箱崎町〈写真⑥〉」の展示。箱崎町界隈は昭和40年代、数多くの映画のロケ地でした。映画ファンにはたまらない、冊子『わが街・中央・シネマの時代』の先着プレゼントもありました。

江戸時代の映画とも言える大衆芸能を堪能できたのは「江戸時代のアニメのルーツ『江戸写し絵』を体験しよう〈写真⑦〉」。およそ200年前にオランダから伝わったマジックランタン(幻灯機)を改良した、「江戸写し絵」の仕掛けを存分にいかした作品が上映されました。中央区ゆかりの話『宿屋の富』では、林家正雀師匠の落語とのコラボレーションが実現。オリジナル台本による本邦初公開の公演となりました。

これまた初めて一般公開されたのが「聖路加国際病院 トイスラー記念館 一般開放〈写真⑧〉」です。事前募集で当選した計40名が、昭和8年に造られたヨーロッパの山荘風の洋館に足を踏み入れました。館内には聖路加病院(聖路加国際病院の前身)の創設者トイスラーに関する展示物が並び、館からの解説を聞きその歴史や意義を噛みしめることができました。

伝統文化と最新の現代文化が共存する中央区。その多彩な魅力に出会えた1日となりました。今年もご参加いただきました皆さまをはじめ、ご協力を賜りました多くの事業者や関係機関・団体、ボランティアの皆さま、さらにはご協賛各社に対して、この場を借りて厚く感謝申し上げます。



①中央区の文化を実感！まちかど展示館「江戸文字を書いてみよう！」



② THE銀座RUN Ethical∞Meeting



③まち歩きツアー「まるごとミュージアムコース」中央区水辺めぐりと講談体験



④ TAKEDA LIFE THEATER



⑤『オシャレきもの展』と『きもの試着体験コーナー』



⑥偲ぶ、日本橋箱崎町



⑦江戸時代のアニメのルーツ『江戸写し絵』を体験しよう



⑧聖路加国際病院 トイスラー記念館 一般開放

表紙

日本橋
(国指定重要文化財)

小川 幸治

石造の日本橋は、明治44年(1911)に架けられ、明治・大正・昭和・平成の歴史を越えてきた。

橋を渡る時、麒麟像と獅子像に目を奪われるが、足元の歩道の敷石には、戦時中に投下された焼夷弾の痕跡が残されている。複数の被弾痕を見ると息がつまる。現在も石造の橋は、戦争の悲惨さを語りつづける。

特集は、江戸幕末維新史・新選組研究家としてご活躍されている伊東成郎氏に本年6月に開催した第21回古典芸能鑑賞会の中で「日本橋幕末維新秘話」と題して講演をお願いしたところ大変好評でしたので、講演に関連した内容で寄稿していただきました。27回目を迎えた「国際交流のつどい」では、料理(スペイン料理のトルティージャ、スリランカのミルクティー、けんちん汁)や踊り(江戸太神楽、サルサ、盆踊り)、呈茶・茶道等日本の伝統文化の体験など様々なコーナーに426の方が参加され、楽しく交流を深めていただきました。

12回目となった「まるごとミュージアム2019」では、新規9事業を加えた48の多彩な文化イベントが繰り広げられ、過去最多の延べ73,000人の方に中央区の文化的な魅力を満喫していただきました。